

県西教育事務所だより

「学校に元気を 先生方に自信と勇気とやる気を 子どもたちに夢と生きる力を」 令和6年2月27日発行(第5号)

「小中学校における遠隔教育実証研究事業」の取組から学ぶ

—古河市3校(三和中学校・三和北中学校・三和東中学校)の実践—

今年度、古河市の3中学校(三和中学校・三和北中学校・三和東中学校)に「エリア型(英語)」の遠隔教育実証研究事業にご協力いただいております。三和中学校の松本理恵教諭の指導を、受信校である三和北中学校・三和東中学校に配信し、3校をつなげる授業を実践してきました。令和5年11月17日(金)に、3校による公開授業が行われ、県西教育事務所管内の小中学校・教育委員会・中等教育学校から50名を超える参加者があり、遠隔教育における教科的な視点について研修することができました。

古河市の研究校3校では、複数の指導体制や、より多くの友達と関わり合うことができる遠隔教育のメリットを生かし、生徒が自分の考えを深めたり広げたりしながら、表現力の向上を図ってきました。Small talk では、3校共通のテーマで話し合うだけでなく、「Google ドキュメント」の共同編集機能を活用し、やりとりした内容等を書き起こして共有することにより、生徒の主体的な学びにつなげることができました。このような英語教育における遠隔教育の手法は、対面授業においても重要です。各校の実践に生かしていきましょう。



三和中 松本教諭が3校の生徒に活動の指示をする様子

学びのイノベーション推進プロジェクト(中学校社会・小学校国語) 実証研究校第2回公開授業開催

中学校 社会

令和5年11月7日(火)、古河市立総和中学校による第2回公開授業(社会科)が開催されました。当日は、県内各地から多くの先生方にご参加いただき、山中健佑教諭による「世界の諸地域 ヨーロッパ州(地理的分野)」、中村将剛教諭による「日本の諸地域 中国・四国地方(地理的分野)」の授業を公開しました。

総和中学校では、「生徒一人一人が表現する力を高める学習指導の在り方」を研究主題に、授業デザインと評価計画の明確化、ICT(スタディ・ログやデジタル教科書、AIツール等)の活用、シームレスな(継ぎ目のない)学びを目指して研究を深めてきました。当日も、課題について資料を基に考察し、根拠をもって自分の考えを表現する生徒の姿や、他者の考えとの共通点や相違点を見付けながら、自分の考えを再構築していく生徒の姿が多く見られました。

公開授業後に行われた研究協議及び 国立教育政策研究所教育課程調査官 中嶋則夫氏による指導講評を通して、社会科の学習指導改善や、探究的な学びを進める上でのポイント等について理解を深めることができました。



小学校 国語

令和5年12月7日(木)、桜川市立樺穂小学校による第2回公開授業(国語科)が開催されました。当日は、成田修子指導教諭(5学年担任)による「大造じいさんとガン」の授業を大勢の先生方が参観しました。樺穂小学校では、「友達と試行錯誤しながら課題を解決し、自分の考えを再構築する児童の育成」を目指してきました。その手立てとして、①アウトプット、②試行錯誤、③ICTの活用、④振り返りの4つの視点から授業づくりを進め、4年間の積み重ねとその成果を子どもたちの姿から見取ることができました。

また、参観された先生方も、研究協議及び 国立教育政策研究所教育課程調査官 渡辺誠氏による指導講評を通して、国語科学習指導の改善・充実を図るポイントについて理解を深めることができました。



「読書座談会」後の全体交流の場面

【教育課程調査官 渡辺 誠氏からの指導講評より(どの学年にも共通する内容を中心に一部抜粋)】

- ・「学習と評価の計画」が綿密に練られており、育成を目指す資質・能力の明確化(何ができるようになるか)につながっているところが素晴らしい。
- ・子どもたちが、複数の情報(叙述)を基に、根拠を示しながら意見交換することができていた。
- ・端末を活用した「スタディ・ログ(学習内容や振り返り)」の蓄積が非常に効果的なものとなっているため、発達段階に応じて継続していくとよい。(タイピング力も素晴らしい)
- ・子どもを主語にして学びを考え、子どもが自己選択・自己決定できる場面を設定することが大切である。
- ・「教材の理解を指導・評価する」のではなく、「資質・能力を育成(指導・評価)する」ことが大切である。
- ・共感的な学び方に加え、批判的な学び方(異なる意見が出るようにする)ができるようにしていくことも必要である。

第11回「いばらきっ子郷土検定県大会」が開催されました！ 令和6年2月3日(土)



攻めの姿勢で準決勝に進出した下館中生徒



準決勝進出を決め歓喜する桃山学園生徒

郷土愛の醸成と本県の魅力を広く発信することをねらいとして、中学2年生を対象に、「いばらきっ子郷土検定県大会」が開催されました。参加チーム生徒数が昨年度の3名から5名となり、よりチームワークが問われる中、県西地区代表中学校2チームが準決勝に駒を進めました。全員が本気になり早押し問題に取り組む姿は感動を覚えるほどでした。

“いばらきっ子”には、茨城のよさを理解し、もっと茨城を好きになり、その魅力を多くの人に広めてほしいと思います。



〇×クイズで活躍した水海道中生徒

<県西地区出場校>

古河市立古河第二中学校
常総市立水海道中学校

結城市立結城南中学校
〇筑西市立下館中学校

下妻市立千代川中学校
坂東市立東中学校

〇桜川市立桃山学園
境町立境第二中学校

八千代町立八千代第一中学校
〇は準決勝出場校



生徒指導班より

「新たな不登校や問題行動」を未然に防ぐことを考える ～生徒指導訪問(生徒指導関係職員等の協議)を通して感じたこと～

生徒指導の徹底及び事故防止については、平素からご尽力いただき、ありがとうございます。

一方、学年末・学年始めに向けて、児童生徒の卒業や進級、教職員の異動等に伴い、児童生徒の不安定な状況や学校の指導体制の混乱等が懸念されます。

つきましては、以下に示した点に留意し、学年末・学年始めの生徒指導及び事故の未然防止に万全を期していただきたいと思っております。

□ 積極的な生徒指導を具体的に進める(「生徒指導提要」第1章より)

◎問題が表面化している一部の児童生徒への問題対応的な生徒指導でなく、すべての児童生徒を対象に行う

- ・個性の発見を支える
- ・自分のよさや可能性の伸長を支える
- ・社会の中で自分らしく生きる人へと成長することを支える

□ 誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策を進める(「COCOLOプラン」より)

- ・不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える(関係機関との連携)
- ・不登校になる前に、心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する(1人1台端末の活用)等

□ いじめ事案の早期発見・早期対応、組織的対応を徹底する(令和5年7月25日付け 義教第1211号より)

- ・いじめの相談や報告があった場合には、即日、組織的対応につなげ、特に“初期対応”に万全を期す
- ・いじめに関する情報は組織で共有し、認知・対応する

また、令和5年度生徒指導訪問では、管内小・中・義務教育学校の生徒指導関係職員との協議及び全体会の中で、「明日から確実に実践したい生徒指導」に向けて考えていただきました。

次年度も、「すべての先生が、すべての児童生徒に実践するのが、今やるべき生徒指導である」を念頭に置き、学校の教育目標の具現化に向けて、教育活動を進めていただくようよろしくお願いいたします。

人事課

不祥事の根絶に向けて

2月20日(火)に、県西生涯学習センターに於いて、「第4回コンプライアンス確保に向けた校長研修会」を開催しました。県教育庁学校教育部教育改革課から、西山力管理主事にお越しいただき、不祥事根絶に向けたお話をいただきました。

実践発表では、八千代町立八千代第一中学校の田神昭校長から「その時、その場で、意識を高める研修(飲酒運転ゼロ)」について、懇親会の会場で行われたアイデアあふれる取組が紹介されました。また、分科会では「飲酒運転ゼロ・体罰ゼロへの取組」「個人情報漏洩防止への取組」について、各学校の実践事例等を共有しました。コンプライアンス確保に向けて、たくさんの貴重なアイデアが出されました。

教職員一人一人の言動が、児童生徒の成長に大きな影響を与えるという、その職責の重要性を認識し、教職員としての自覚のもと、全職員一致団結して不祥事の根絶に向けて取り組んでいきましょう。



田神昭校長による実践発表